



祇王小学校

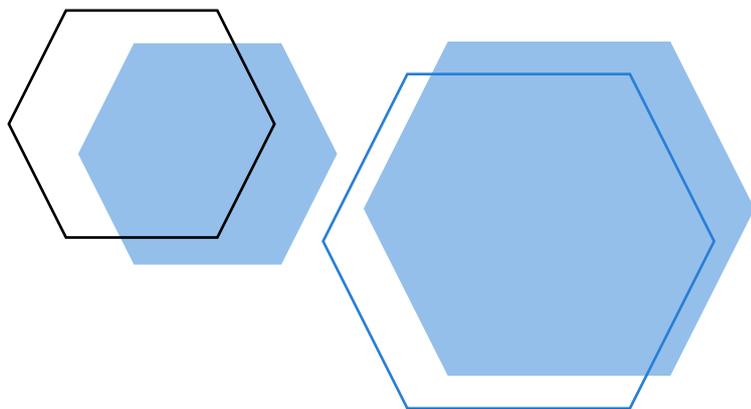
コミュニティ・スクール

「みんなで育てる祇王の子ども」

会長より、「『主体性のある子どもを育てること』が今後、教育として大切にされていくと思う。その中で、コミュニティ・スクール導入を生かし、『学校の課題を知ること』から始め、必要なところに依頼し、学校に関わっていきなど、みんなで考えたい」と述べられました。また、「学校・応援団・まち協」それぞれで、考えていたことを出し、学校運営協議会で協議することも考えたいと語っていただきました。

副会長から「親同士のつながり、地域とのつながりが希薄になり、今後は、どうつなげていくか、課題として検討したい」と意見がありました。

「祇王の子どもたち」は、地域住民に見守られ、支えられ育ってきた基盤があります。今後も継続するためには、コミュニティ・スクール導入を契機に学校と地域住民・保護者が一緒に課題について話し合う機会として活用していきたいと思います。



目標達成のために

課題の解決のためにどうすべきか話し合う

タブレットを使った授業を参観の後、「時代とともに変化していて、自分たちの頃の授業とは様変わりしたなあ」と話しながら廊下を歩きました。校長より子どもたちの様子について「学力面は、『考える力』が伸びているし、『アルマジロ運動』を合言葉にここまで頑張ってきた成果がみられる」と説明がありました。

「課題としては、子どもと大人のつながりが弱まっていたり、PTA や子ども会の衰弱化があったりする。保護者同士のつながりや、お年寄りとのつながりなど構築していくべき課題はある」「会社・企業の考え方や解決方法も取り入れながら、互いに意見を出し受け止めて、改善につなげていければ」との意見が出ました。「教職員にも地域のことを知ってもらうために、広報誌を回覧できるといいね」など具体策も出ました。

今現在の課題についても「地域で子どもたちを注意深く見守るので、任せてほしい」と心強いお言葉をいただき、地域の行事でも学校と連携して子どもを支えていける話し合いができました。

